

議 事 要 旨

議 事 要 旨	
会 議 名	徳島県がん診療連携協議会 診療連携部会
日 時	平成27年10月1日(木) 19:00~21:00
場 所	徳島大学病院大会議室 (中央診療棟5階)
出 席 者	埴淵会長、金山部会長、福森委員、八木委員、石倉委員、山崎委員、住友委員、林委員、漆川委員、喜多委員、秋田委員、森氏(代理)、宮本委員、瀧口委員、鎌村委員、六車委員、西村委員、丹黒委員、福川委員
欠 席 者	寺嶋委員、田中委員、岡久委員、居村委員、坂東委員、藤原委員
陪 席	徳島大学病院医療支援課：小林係長、阿部主任、宮越事務補佐員 徳島大学病院：鈴木副看護部長 健康増進課：平田係長、石川主事 徳島県鳴門病院：郡MSW課長補佐
<p>【議題1】 各がんの診療連携の状況について</p> <p>最初に、金山徳島県がん診療連携協議会 診療連携部会長（以下、金山部会長という。）司会進行のもと、徳島県がん診療連携協議会 診療連携部会が開催された。開催にあたり、出席委員から自己紹介があった。</p> <p>金山部会長から、がんの専門診療医療機関、標準診療医療機関のがん医療体制を添付資料にしているとの報告があった。</p> <p>1. 徳島県生活習慣病管理指導協議会の各がん部会より報告があった。</p> <p>①肺がん部会：住友委員から今回は準備をしていないとの報告があった。</p> <p>②乳がん部会：丹黒委員から、平成27年7月に乳がん部会を開催した。徳島県統一で乳がんの治療の記録ノートを活用している。徳島大学病院も手帳を活用しているが、地域の医療機関へ働きかけて使用して頂くよう周知徹底を行いたいとの報告があった。</p> <p>③胃がん部会：六車委員から、胃がん部会も診療連携を進めているがクリティカルパスについてはStage Iについては活用しているが、Stage2以上は治療の記録ノートに関してもあまり普及されていないため、今後は推奨していきたい。予後との兼ね合いもあるため、このような反映となっているのではないかと報告があった。</p> <p>④肝がん部会：金山部会長から、肝がん部会からは特に報告事項はないとの報告があった。</p> <p>⑤子宮がん部会：西村委員から、パスも治療の記録ノートも作成されているが、まだ活用は出来ていないのが現状である。今後は普及させていきたいとの報告があった。</p> <p>⑥前立腺がん：金山部会長から、前立腺がんに関してはまだ部会がない。治療の記録ノートも作成されているが、徳島大学病院では活用しているが、他の施設ではまだ普及されていないのが現状であるとの報告があった。</p> <p>⑦食道がん：丹黒委員から、食道がんのパスと治療の記録ノートも出来ているが、徳島大学病院でしか活用されていないのが現状であるとの報告があった。</p> <p>金山部会長から、治療の記録ノートについて5大がんと食道がん・前立腺がん・婦人科がんで8種類の手帳の作成が出来ているため、使用していただきたい。また、拠点病院と受け入れ先の医療機関との連</p>	

携が進まないといけないのではないかとの意見があった。

森委員から、医師会と共催して行っているセミナー等では効果があるのかとの質問があった。

金山部会長から、徳島大学病院はがん診療連携セミナーを年に2回程度開催を行っている。各地域の医師会と共催で県西部、南部、中央、淡路等で行っているが、どれだけの効果があるのかは目に見えてはっきりわからないが、少しずつ連携医療機関や加算も増えてはきているとの回答があった。

続けて金山部会長から、今後も出来るだけクリティカルパスの運用や治療の記録ノートの運用を進めて頂きたいとの要望があった。

【議題2】 各拠点病院における地域連携クリティカルパスの活用状況、手帳の運用状況について

各拠点病院から、別紙資料2に基づき連携保険医療機関届出施設数とがん治療連携策定料加算件数の報告があった。

- ①徳島大学病院福森委員から、がん治療連携計画策定料加算件数は平成26年7月から1年間で65件であった。うち乳がんが45件である。治療の記録ノート配布状況も行っており平成26年度は143冊、平成27年度は半年で107冊配布を行った。連携保険医療機関届出施設数は肺がん99件（うち県外12件）、胃がん109件、大腸がん109件、肝がん103件、乳がん104件（うち県外10件）、婦人科がん42件（うち県外4件）、前立腺がん51件（うち県外12件）食道がん100件（うち県外10件）であるとの報告があった。
- ②徳島県立中央病院八木委員から、がん治療連携計画策定料加算件数は平成26年4月から1年間で105件、内訳は肺がん37件、大腸がん39件、胃がん28件、子宮体がん1件であった。乳がんについてはまだ算定出来ていない。治療の記録ノートの配布は昨年度8月から配布を始めて8カ月間148冊であったが、今年度は4月から39冊と少なく、診療室に治療の記録ノートを積み上げてスタッフが配布していない患者さんの場合にドクターに声をかけていただくようにすれば配布出来るため、スタッフの教育が大切と思われる。連携保険医療機関は当院の5点セット（パンフレット、返信封筒、加算の説明書等）を送付しており大腸がん、胃がんなどは200施設を超えているとの報告があった。

丹黒委員から、治療の記録ノートは看護師が配布を行っているのかとの質問があった。

八木委員から、そうであるとの回答があった。

- ③徳島赤十字病院石倉委員から、連携保険医療機関届出施設数は少しずつ増えてきている。当院も文書や直接連絡して連携医療機関お願いをしている。がん治療連携計画策定料加算件数は大腸1件・胃がん4件・肺がん20件の算定となっている。治療の記録ノート配布については、肺がん・婦人科がん・乳がん・肝がん・前立腺がん・食道がんとも各10冊程度対象となる患者へ主治医から配布を行っているが院内のコンセンサスが得られていないことなどから普及が進んでいないのが現状であるとの報告があった。
- ④徳島市民病院山崎委員から、がん治療連携計画策定料加算件数は、最近では加算が出来ていない。治療の記録ノートの配布については肺がんが8割程度出来ているが、その他のがん腫は出来ていないのが現状であるとの報告があった。
- ⑤徳島県立三好病院住友委員から、今年4月に地域がん診療病院として認可されたお礼があった。がん治療連携計画策定料加算件数、連携保険医療機関届出施設数についてもまだ出来ていない。進めるにあたり、連携パスを使用する前に院内パスなどの整備を整えてから開始する予定である。まずは大腸がんから進めている。なお、院内で加算運用する構築をしなければいけないとの報告があった。
- ⑥徳島県鳴門病院漆川委員から、当院はがん診療連携拠点病院からの連携の場合や、地域の医療機関との連携がある。病院としてはがん治療連携計画策定料加算とがん治療連携指導料の両方を算定出来ればいいが、出来ないことから現在は算定できていない。治療の記録ノートについては、連携室に置いていた

が配布が出来ていなかったことから現在は外来診療室や外来化学療法室等に置いている。今後は、看護師から医師に配布を促していただき、配布が出来ているか確認を行っていききたいとの報告があった。

- ⑦阿南共栄病院喜多委員から、がん治療連携策定料加算は最後まで当院で診ることから算定できていない。治療の記録ノートの配布は乳がんで1冊であった。今後は配布の周知を行っていききたいとの報告があった。

金山部会長から、まだ十分な連携が出来ていないのが現状であるが、今後は在宅等にも進んでいくため治療の記録ノートを活用して連携をしながら在宅に入れるようにしていかなければならないとの意見があった。

森代理から、去年の議事要旨を拝見してもあまり変わりはないように思われる。連携については医師会の診療所医師の取り組み方や意欲も必要であり、紹介先の医師との関係も重要である。セミナーだけでは連携のきっかけが難しいがもっと進んでいけば非常に良いのではないかとの意見があった。

秋田委員から、周術期口腔機能管理については徳島大学病院では歯学部があるため依頼件数は少ないが、徳島市民病院が徳島県歯科医師会在宅歯科医療連携室を利用して月に数十件の依頼の協力をいただいている。今後も周術期口腔機能管理等に関しても徳島県歯科医師会在宅歯科医療連携室に依頼を頂き協力を行っていききたいとの要望があった。

金山部会長から、患者会から災害時にがんの患者さんが困る状況になったりするため、災害時の緊急対応等について検討していただきたいとの要望があり、患者会や健康増進課も加わり検討を行っている。治療の記録ノートも活用出来ればとの意見もあり、今後はがん診療連携拠点病院の方にもご意見をいただいたり、協力をお願いすることもあるとの報告があった。

【議題3】徳島県がん診療連携セミナー開催について

金山部会長から、徳島県がん診療連携セミナー開催について説明があった。

- ①今までに2回、徳島県医師会と共催で医療従事者対象に連携についてセミナーを開催した。
- ②去年度は、患者さんや家族の市民を対象に開催したため、今年度は徳島県医師会と共催で県内医師会の先生方、医療従事者を対象に行いたい。
- ③内容としては、今年度の夏にがん相談支援センター周知のために阿波踊りに参加され、がんフォーラムでも講師をしていただいた国立がん研究センターがん対策情報センター長の若尾先生に講師を依頼する予定である。その他に、徳島県保健福祉部の方、患者さんの立場として患者会の方、相談支援や緩和等の内容で検討を行いたい。
- ④日程については平成28年1月～3月までの開催を予定している。
- ⑤会場は徳島県医師会を予定している。

森代理から、徳島県医師会は現在建直し工事のため平成28年4月に新会館が完成の予定であるとの報告があった。

金山部会長から、日程、会場については検討を行いたい。以上の提案で計画を進めてもよいかとの伺いがあり、出席委員で検討の結果、了承された。

宮本委員から、ガンフレンドで先日講演会を開催したが、参加者から自身のがんの現状や再発についての質問が非常に多かった。このような会で患者のためにもぜひとも連携を進めて、安心できる体制をお願いしたいとの要望があった。

金山部会長から、来年度は患者さん対象に治療のこと、相談体制、がん登録、緩和についてなど市民向け公開講座を企画する予定であるため、協力をお願いしたいとの要望があった。

宮本委員から、是非開催していただき動員や広報など協力していきたいとの意見があった。

【議題4】 その他

石倉委員から、近々開始が始まるマイナンバー制度に医療情報を活用することは出来ないのかとの質問があった。

金山部会長から、災害時の検討会でも治療の記録ノート手帳より医療情報を入れたカードに出来ないかとの意見もあったが難しいのではないかとの意見があった。

石倉委員から、税金も払っているのに個人情報に医療情報が引っ張れないのはおかしいのではないかとの意見があった。

鎌村委員から、まだマイナンバー制度について詳しくはないが、カード自体に乗っかるのではなかった。昨日、厚生労働省で医療番号の検討会があったようなので2018年から医療番号にひっついてくるようである。今後は災害時のがん患者さんの対応として、徳島県としても何かできないか検討していく予定である。

金山部会長から、災害時にICチップに医療情報等入れて使用できるようになればいいが難しいため、今後は厚生労働省や県でも検討していただけるようなのでお願いしたいとの意見があった。

鎌村委員から、治療の記録ノートの配布や活用について各病院で工夫をいただいているようである。病院として仕組みが難しいかもしれないが今後も、ぜひ活用していただきたい。また、災害時に平時より備えていただくのがよいが、国立がん研究センターがん対策情報センターのHPに大規模災害に対する備えが掲載されている。他県で作成されたプロトタイプ版であり、緊急時の治療の備えとして医師と相談しておく等など普及啓発や周知が掲載されている。参考にしながら本県でも構築していきたいとの要望があった。

金山部会長から、災害時に対して治療の記録ノートに相談窓口など、連絡先等も今後作成分から掲載を行っていききたいとの要望があった。

福川委員から、拠点病院を退院された患者さんは地域の病院で対応していかなければならない。しかし、患者さんを支える家族が居ない方などは介護支援協会の相談員が支えとならなければならない。昨今は在宅支援の診療所の先生と連携をしながらしているが、拠点病院との連携はまだ進んでいないように思える。事例として去年末の30日に支援依頼の連絡があり、自宅に伺ったが介護支援には申請が必要であり患者家族は何も知らず、年末のため申請もできず関わることができずお亡くなりになり、考えさせられる事例であったとの報告があった。

金山部会長から、普段から少しでも早く連携が出来ていれば円滑に出来ていたと思われるため、今後も連携を深めていきたいとの意見があった。

宮本委員から、AWAがん対策募金で行っているがん検診向上プロジェクトについて紹介があった。メッセージカードによる検診の呼びかけを徳島県内でも協力を依頼し、がん検診率向上プロジェクトを実施している。大学祭などでブースを設けて年間800枚程度のメッセージカードを配布している。また、各保健所と協力して高等学校などで講演を行っている。拠点病院の先生方にも講師をして頂いている。今後がん検診向上プロジェクトの協力をお願いしたいとの要望があった。

金山部会長から、ぜひ普及をさせていただきたいとの要望があり閉会となった。